一般質問通告書

次のとおり、質問したいので通告します。

平成２６年２月１６日

山北町議会議長　池　谷　荘次郎　殿

受付番号	第２号	質問議員	２番	原　　憲　司　㊞
件名	高齢化社会に向けた町の活性化と健康づくりについて			

要　　旨

当町の人口は、平成２６年１月１日現在１１，４８８人で、その内６５歳以上の高齢者は３，６５８人で、全体の３１．８４％を占めています。日本の人口が増加した団塊の世代の人たちが６５歳になり、全国的に高齢者が増えている中で、当町においても、第５次総合計画（案）で目標を設定した平成３５年の６５歳以上の高齢者人口は４，１９１人で総人口の３８．１％を占めていますので、高齢化社会に向けた町の活性化と健康づくりに積極的に取り組む必要があります。

神奈川県では、今後、全国を上回る勢いで高齢化が進行することが予測されるとして、超高齢化社会に立ち向かうために、病気の誘因となる食のあり方や運動、休養などライフスタイルを見直して、健康長寿の社会づくりが急務であるとし、「未病を治す」をキーワードに、県西地域の豊かな自然や多くの温泉、生産から消費まで一貫した食の提供などの多彩な魅力を繋げて、一つの大きな魅力を創りだす、新たなプロジェクトを２５年度中に設置する予定であります。

そこで、当町でも、高齢化が進む現状を踏まえ、町の魅力ある地域資源や食を活かした高齢化社会に向けた町の活性化と高齢者一人ひとりが生き生きと安心して暮らせるための健康づくりの推進について、伺います。

１．高齢化社会の到来に向け、河村城址や洒水の滝、西丹沢などの美しい自然を満喫した健康づくりとして、今年度６回実施した森林セラピーを町の高齢者を対象に、数回実施するとともに、会費の軽減により、多くの方々に参加して

いただき、参加者とのふれあいの場を創りだし、町の活性化に繋げてはどうか。

2．町の活性化対策として、当町の魅力あるお茶や里芋、山菜などを活かした新たな山北ブランド食を開発し、町民や観光客に提供することにより、「食」を求めて多くの観光客が訪れ、食事やお土産品などの商品の流通が多くなり、町のにぎわいや活性化に繋がるので、新しい食の開発に取り組んではどうか。

3．高齢者の健康づくりとして、当町の魅力ある地域資源や食を活用した健康づくりを進めるために、様々なスタイルで「運動」が楽しめる新たなメニューを創りだし、健康食の提供と併せた健康づくりに取り組んではどうか。

4．高齢化社会に向けた取り組みとして、県の「未病を治す」に準じた山北らしいキーワードを定め、行政、町民、専門家で構成するプロジェクトを設置し、町の魅力ある地域資源や食を活用した健康長寿の町づくり計画を策定し、高齢化社会に向けた新たな取り組みを進めてはどうか。

5．県では、「未病を治す」をキーワードに、県民から県西地域の多彩な魅力を繋げ、新たな活力を生み出すための意見・提案を募集しました。これを受け、町民から大野山牧場の現状を変えることなく利活用でき、「未病を治す」にも寄与できるとした提案がなされました。この提案の主な内容は、大野山牧場を西丹沢山系の野生鹿を捕獲して飼育する「鹿牧場」として事業化し、飼育した鹿の肉や鹿茸（ロクジョウ）等の漢方薬を販売する案であり、まきば館及び牛舎周辺は、薬草を栽培する「薬草園」と「小動物園」を整備し、漢方薬や薬草の販売する漢方特区と小動物とふれあう癒しの広場とする案であります。また、中川温泉や町内で鹿肉料理や薬膳料理を提供することにより、地域の活性化や健康づくりに繋がり、「未病を治す」にも繋がるとしています。

この提案は、町内の高齢者の雇用や健康づくりに繋がり、食や漢方を求めて、多くの方々が訪れ、町の活性化にも繋がりますが、町では、どのように対応し、県とどのような協議をしていくのか。また、町は大野山牧場の廃止案にどのように対応しているのか。